

てらこや埋文 2007年秋



『文化の秋』ようやく到来

埋蔵文化財資料館秋の恒例行事 企画展を開催します

長かった残暑もようやく終わりを告げ、ついに秋がやってきました。「文化の秋」と呼ばれるように、埋蔵文化財資料館の活動も最も華やかになる季節です。

毎年恒例、秋の企画展を開催します。今回の企画展のテーマは、ずばり『謎』。郷土山口県の未だ解明されていない古代の謎を一挙に紹介してしまおう、というものです。

実は謎だらけ？

当館は、名称の通り埋蔵文化財＝考古資料を主に取り扱う施設です。考古学では、調査によって得られた資料（住居跡や墓跡、土器や石器）から過去の社会環境や社会制度、精神文化などを復元します。学問ですから当然事実（実際に存在する資料）を地道に積み重ね、それに仮定・推測を組み合わせ一つ一つの論を展開していく訳ですが、現在知り得る事実だけで「過去に起こったこと」「過去に考えられていたこと」の全てが把握できる訳ではありません。また、現在妥当と考えられている解釈が必ずしも真実でない可能性もあるのです。難しい学問ですね。

しかし、やはり繰り返し繰り返し事実と向かい合う方法でしか真実に近づけない。当館を含めすべての埋蔵文化財研究機関や考古学者達は今日も遺跡や遺物とにらめっこしているのです。

やまぐち古代の七不思議

このような根気強い研究の結果、私たちの郷土の古代文化は徐々に解明されつつあります。当館はここ数年、「山口県の古代文化がここまで解明された」という企画展示を開催してきました。しかし今回はあえて「山口県の古代文化には未だ解明されていない謎がこんなにたくさんありますよ」という展示を試みます。そのため、独断ではありますが著名でありつつも謎が多い山口県の遺跡や遺物を7個（ヶ所・種）選定し、これを『やまぐち古代の7不思議』と命名しました。

学問は、何かを疑問に感じることから始まります。言い換えると、何かを疑問に感じる事が解明への第1歩なのです。是非今回の展示に足を運んでいただき、私たちと共に謎の解明に乗りだしていただけたら幸いです。（横山成己）

山口大学埋蔵文化財資料館 第24回企画展

やまぐち古代の七不思議

展示資料 王屋敷遺跡出土有柄銅剣・沖ノ山出土古銭・石城山神籠石
ジークンボ古墳群・土井ヶ浜遺跡・神田山石棺甕状穴・分銅形土製品

開催場所 国立大学法人山口大学埋蔵文化財資料館
開催期間 平成19年11月3日（土）～平成20年2月29日（金）
開館時間 午前9時～午後5時
休館日 土・日曜日、祝祭日、12月28日～1月4日
※11月3日（土）は姫山祭（吉田キャンパス大学祭）のため臨時開館します。
※休館日に入館ご希望の方は、事前にご連絡ください。
団体のお客様に限り対応いたします。
入館料 無料



山口県内の博物館紹介 vol.10

平生町歴史民俗資料館

平生町歴史民俗資料館は、平生町の中心部にある堀川公園内に位置しており、図書館と併設されています。また、周囲には横穴式石室の模型や移設された堀川南蛮樋などがあるほか、約50m東側には民具館があります。

常設展示室では、町内の遺跡から出土した出土品が数多く展示されています。このほか、付属展示室では3年前から毎年特別展が開催されており、昨年度の入館者は約2200人を数えるそうです。今回は、図書館館長補佐の小島康司さんと嘱託の鳥枝達典さんに館の展示や特色についてお話をうかがいました。

（質問）歴史民俗資料館の常設展示の特色は何ですか？

「岩田遺跡（縄文時代の集落跡）、吹越遺跡（弥生時代の高地性集落跡）から出土した土器や石器、神花山古墳から出土した頭骨による被葬者（古代の女王）の復顔像や山口県内最大の方後円墳である白鳥古墳出土品など、全国的にも著名な縄文～古墳時代の遺跡出土品や資料を中心に展示しています。」

（質問）付属展示室の特別展示はどのようなものですか？

「町内外の個人や各種同好会のご協力を得て、1～2ヶ月おきに絵画展、水墨画展、船の模型展など様々な展示を行ってきました。これらの展示は貴重な発表の場となっているほか、町内外の方に何度も足を運んでいただける当館の魅力となっています。」

このほか、平生町には復元整備された神花山古墳、人間魚雷「回天」に関わる資料や隊員の遺品を展示した阿多田交流館などがあります。また大星山（標高438m）の山頂からは町内の遺跡や美しい瀬戸内海を一望でき、晴れた条件のよい日には九州や四国を見渡すことができます。歴史民俗資料館と合わせて平生町へ是非足をお運びください！

（田畑直彦）



平生町歴史民俗資料館外観



展示内容を説明をいただいた鳥枝さん

お問い合わせ先
平生町歴史民俗資料館
〒742-1101
熊毛郡平生町大字平生町193-4
Tel 0820-56-2310



2007年夏 埋蔵文化財資料館の活動

7月 7/7（土）
姫山祭（吉田キャンパス学生寮祭）にてイベント『大学情報機構2007 姫山Fes』開催。
7/9（月）～7/24（火）
吉田構内農学部附属動物医療センター（吉田遺跡）にて本発掘調査を実施。
7/21（土）
第7回公開授業『古代人の知恵に挑戦！～古代のお米をつくってみよう2～』
第2回授業（稲の観察と土器づくり）開催（受講者10名）。



農学部附属動物医療センター調査区全景

8月 8/1（水）～8/6（月）
医学部総合研究棟（山口大学医学部構内遺跡）にて予備発掘調査を実施。

9月 9/14（金）
山口県博物館協会研修会（於：しものせき市立水族館 海響館）に参加。
9/22（土）
第7回公開授業『古代人の知恵に挑戦！ 古代のお米をつくってみよう2～』
第3回授業（古代米の収穫）開催（受講者9名）。



第7回公開授業「収穫」の様子

季刊山口大学埋蔵文化財資料館通信
第10号
『てらこや埋文』2007 秋

編集・発行
山口大学埋蔵文化財資料館
〒753-8511 山口県山口市吉田1677-1
Tel/Fax 083-933-5035
E-mail yuam@yamaguchi-u.ac.jp

発行年月日 2007.10.31.



資料館この一品 vol. 9

土器の棺^{ひつぎ}

天王遺跡出土の壺

現在、総合図書館正面ロビーにて、大きな壺の形をした土器が2個展示されているのをご存じでしょうか。これらの土器は昭和26年（1951）に、当時山口大学教育学部助教授であった小野忠熙氏を中心とする山口大学島田川遺跡学術調査団によって周南市熊毛町所在の天王遺跡が発掘調査された際、弥生時代の墓地から出土したものです。いずれの土器も出土状況やその大きさから、弥生時代後期に子供の遺体を納めた棺として使用された可能性が高いと推測されています。土器は棺として作られたものではなく、日常に使われていたものを転用したと考えられており、このように土器を棺として使用した墓は土器棺墓と呼ばれています。

第12号土器棺墓に使用された壺形土器（総合図書館ロビーにて展示中）の口径は約28cm、高さは約60cmで、胴部には意図的に小さな穴が空けられています。また、壺の口は別の土器片でふさがれていました。第9号土器棺墓は甕（かめ）形土器2個を合口にして棺にしたもので、長さは約100cm、最大幅約32cmです。いずれも大人が入れる大きさではなく、乳幼児が入れるくらいの大きさです。しかし、これらの土器の内部からは何も出土していないため、詳しいことは分かりません。

土器棺墓の謎

北部九州では、成人用の棺として専用につくられた弥生時代の甕（かめ）棺が有名ですが、基本的には本州には分布していません。しかし、山口県を含む西部瀬戸内では、日常用の土器を棺に転用した弥生時代の土器棺墓が数多く見つかっており、山口県内では約140例が知られています。土器棺墓の内部から子供の骨が出土した例もあるものの、成人骨の一部が出土した例もあり、すべてが子供用の棺として使われたわけではないようです。また、葬られた人が身につけていたと考えられる碧玉製の管玉やガラス小玉などの遺物が出土した例もありますが、ほとんどの土器棺墓の内部からは何も出土していません。このため、土器棺墓にはまだ多くの謎が残されています。

（田畑直彦）



天王遺跡第12号土器棺に使用された壺形土器（稲子田光男氏撮影）



天王遺跡第9号土器棺墓検出状況（『島田川』1953より）



天王遺跡第9号土器棺墓に使用された甕形土器（稲子田光男氏撮影）



お食事処まいぶん vol. 2

今年度、埋蔵文化財資料館では公開授業として古代米（赤米）を育てています。そこでこのコーナーでは、昔の人々が実際に用いた道具をつかった古代米のおにぎりづくりをご紹介します。

「火おこし」をしよう

①先端に木製の棒を取り付けます



②発火台に乗せます



③横棒を上下に動かします



軸棒が高速回転することにより摩擦熱が生じます。



今回は桑の枝を使いました

④数分後…



火おこしを始めて数分、早くも煙が出てきました。発熱したおがくずを燃料（干しワラなど）の中に落とし発火させます。

今回は公開授業の参加者の方々に協力していただいて、火おこしを行いました。火おこし名人のお話によれば、なるべく乾燥した燃料を用いると、より発火しやすくなるそうです。ご協力ありがとうございました。

（乃美友香）



喫茶まいぶん Vol. 2

このコーナーでは山口県内の史跡公園を紹介します。今号では、山口県柳井市柳井字向山に位置する柳井茶臼山古墳を取り上げます。この古墳は昭和23年に国の史跡に指定され、現在は保存整備されて史跡公園となっています。

国指定史跡 柳井茶臼山古墳

この古墳は4世紀末に造られた前方後円墳で、発掘調査では多数の埴輪をはじめ、鏡、勾玉、鉄刀などが出土しました。中でも単頭双胴怪獣鏡は、古墳時代のものでは国内最大を誇り、柳井茶臼山古墳の名を日本中に知らしめています。古墳は造られた当時の姿に復元されており、調査時の様子や出土品については史跡公園内の資料館で詳しく学べます。丘陵の一部を利用して築かれたこの古墳からの眺めは素晴らしく、瀬戸内海と柳井市域を一望することができます。



単頭双胴怪獣鏡



柳井茶臼山古墳墳頂からの眺望



史跡の場所

当史跡公園は柳井駅（JR山陽本線）から車で15分程の場所にあります。国道188号線沿いに走れば、柳井駅付近からは標識が案内してくれます。是非、一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

（藤野好博）